

# ZENRAKUREN

MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報

## 第65年度（平成26年度） 通常総会開催される

### 第43回 全国酪農青年女性酪農発表大会 ①

若手後継者の本音／今泉洋さん

人事異動



酪農トピックス／  
ふくおか県酪農業協同組合 尾形文清代表理事組合長  
旭日双光章受章記念祝賀会（福岡）ほか

日本酪農見て歩紀（兵庫県明石市 伊藤牧場）



8

2014 August No.587



全国酪農業協同組合連合会

# 通常総会開催される

本会は、7月24日(木)、グランドプリンスホテル新高輪・国際館パミール(東京都港区高輪)において、第65年度通常総会を開催し、平成25年度の事業実績、剰余金処分案、平成25年度の事業計画等の承認を得るとともに、役員の補欠選任を諮った。

午後1時、定刻開始となった総会の冒

頭、挨拶に立った砂金甚太郎代表理事会長は、はじめに会員並びに来賓各位の参集に對して謝意を表した。

そして、昨今の厳しい酪農情勢については、「我が国の酪農は、飼料価格の高止まり、燃料代や電気代の値上げ等の経営コストの

上昇により、厳しい状況にある。酪農家戸

数の減少、さらには搾乳牛の減少により、生乳生産量も減少し続けている。

これまでも、平成19年から20年のような飼料価格の高騰はあったが、今回は経営コスト全体が高騰するに至り、極めて危機的な状況であると考えている。

このような状況の中、私ども全酪連は、その使命において、生産基盤の強化・維持に強く取り組む所存である。

「将来ビジョン」については、後継者支援や搾乳後継牛の確保等、その施策のスピードアップ、いつそうの充実を目指したいと考えている。また、高品質な飼料や生産資材の安定供給、自給飼料増産や生産性向上の技術普及、国産乳製品の販売推進等も重点施策として実施する。

さらに、農水省が見直している酪肉近においては、酪農関連団体と連携しつつ、実効性のある関連対策の提言を強く要請するとともに、コスト削減や機能強化に向けた

協議を進めていきたい。」と述べた。

続いて、本会の事業実績・計画関係については、

「平成25年度の実績は、会員の皆様のご理解とご協力を賜った結果、計画を上回る成績を残すことが出来た。改めて、厚く御礼申し上げる。

会員の皆様の付託、そして、我が国の酪農生産基盤の強化・維持に向け、これからも役員が一丸となり邁進してまいら。」と述べ、開会の挨拶を終えた。

本総会には来賓として、農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課・森重樹課長、農林中央金庫・種田宏平常務理事をはじめとして、公益社団法人中央畜産会、一般社団法人中央酪農会議、一般社団法人全国酪農協会、一般社団法人全国農協乳業協会等関係団体から多数のご臨席をいただいた。

そして、来賓挨拶の中で農林水産省の



砂金代表理事会長



農林水産省 森課長

森課長は、「我が国の生乳生産状況は、減少が続いている状況だが、最近では減少幅が若干縮小する傾向も見られ、乳業メーカーからも国内生産の回復への強い期待の声をいただいている。我が国の牛乳乳製品の需要をきちんと確保していくという意味でも、生乳生産の回復が重要な課題と考えている。これから夏を迎えるにあたり、牛乳生産の安定に向けて、暑熱対策や飼養管理の徹底など、的確なご指導をお願いしたい。

と考えている。26年度の予算に、簡易畜舎の整備、暑熱対応、飼養環境改善への支援等の対策を用意した。

また、自給飼料生産の取組み強化に向けた1頭あたり6,100円の対策や、新規就農者への経営継承の支援、TMRセクター、酪農ヘルパー等支援組織への対策、さらに畜産クラスターへの取組みも行っている。

配合飼料価格安定については、昨年12月に見直し、異常補填を発動しやすくなったが、さらに今年6月に、自民党において、超異常時の補填における国の負担割合強化の方針が打ち出された。皆様方におかれては、こういった支援措置を有効に活用していただき、地域の実情に即して酪農生産基盤の回復強化が進むよう、今後ともご協力をお願いしたい。

本年度は酪肉近の見直しを行っており、先般の畜産部会においても酪農経営安定対策や生乳生産基盤の強化、指定団体のあり方、集送乳の合理化などについて様々なご議論をいただいている。今後、しっかり検討を重ねて酪農乳業について夢の持てる将来展望の姿を描いていきたいと考えている。

関連して、産業競争力会議の議論では、成長戦略を改定し、その中で酪農家の創意



農林中央金庫 種田常務理事

工夫を活かす生乳取引のあり方も打ち出している。指定団体の機能に留意しながら、自家製造枠の拡大など生乳取引のさらなる多様化を進めることを検討している。

また、規制改革の計画では、農業協同組合の見直しを行うことにされており、この議論を私どもも注視し、指定団体制度への影響なども含めて慎重に検討してまいります。

このような中、貴連合会におかれては酪農の発展のため、様々な取り組みをしてこられた。今後ともその活動をさらに進めていただくことを大いに期待を申し上げます。」と述べられた。

## 新役員紹介

第5号議案「役員を選任に関する件」において、坂本壽文代表理事専務と奥澤捷貴理事の退任に伴う補欠選任が行われ、齋藤昌雄氏(千葉県みらく農業協同組合・代表理事組合長)と、清家英貴氏(実務精通役員)が理事として新しく選任された。

また、総会終了後の第477回理事会において、清家英貴氏が専務理事に選任された。



●専務理事 清家 英貴  
実務精通役員 常勤



●理事 齋藤 昌雄  
千葉県みらく農業協同組合 非常勤

### 平成25年度事業実績及び平成26年度事業計画

(単位:百万円)

科 目	平成25年度 実績 ①	平成26年度 計画 ②	②/①対比
酪農事業(取扱金額)	12,033	11,763	98%
購買事業(取扱金額)	82,336	80,133	97%
総取扱金額	94,369	91,896	97%
事業総利益	11,752	11,599	99%
販売費用	7,799	7,801	100%
事業管理費	3,148	3,176	101%
事業利益	806	622	77%
事業外収益	1,411	733	52%
事業外費用	1,138	733	64%
経常利益	1,078	622	58%
特別利益	181	0	0%
特別損失	80	161	201%
税引前当期利益	1,380	532	39%

また、農林中央金庫の種田常務理事は、「今年度は、政府において酪農乳業大綱の見直しが行われ、貴連合会では第10次中期計画を策定するという、大きな節目と伺っている。酪農を取り巻く環境が厳しいなかで、いかに安心して次世代に酪農の経営を移していくのか、そういった酪農をつ

くっていくということが大きな課題であると思っている。将来の日本の酪農をどうするのか、組合員、生産者、そして消費者のために、まずは貴連合会の役割が重要になってくると思っている。さらにもう一つ非常に重要なことは、



原田議長

「消費者の理解」であり、酪農は守らなければならぬが、いかに安心・安全な乳製品を国民に届けるのか、これは、系統でなければ出来ないこともあり、国民挙げて考えていかなければならない。当金庫としても、単に金融の話だけではなく、関係団体との連携をしながら、経営の改善に取り組む皆様の支援を出来るかぎりしていきたいと考えている。」と述べられた。

この後、原田陽一氏(山形県酪農農業協同組合、代表理事組合長)を議長に選出して議事に入り、いずれの議案も賛成多数で原案どおり承認された。



会場全体の様子

## 第43回 全国酪農青年女性 酪農発表大会 ①

### 酪農経営発表の部



## 高橋実さん(東北会議)が 農林水産大臣賞を受賞!!



## 渡会智花さん(中部会議)が 審査員特別賞を受賞!!

まず初めに、全国酪農青年女性会議 大井委員長より、主催者挨拶が述べられました。「ようこそ仙台へ、東北へいらっしゃいました。東北会議の皆さん、やっこの東北の地に発表大会を持つてくることが出来ました。全国酪農青年会議の委員長として、一刻も早く東北での開催を望んでおりましたが、3年もかかってしまいました。全国から東北へ、酪友の力・元気を皆様へ届けられればと思います。現在、酪農を取り巻く環境は、円安による飼料高、燃料高騰、乳価低迷など、苦しいことがありますが、ここで私達が『酪農は苦しい、厳しい』と言ってしまふと、本当に苦しくなってしまう。今日の発表者の経営の仕

方、経営のヒント、そしてこれが一番大事なのですが、酪農の感動」をこの大会で、東北の地から全国へ発信できる大会にしましょう」  
続いて砂金会長より、挨拶が述べられました。「本大会は、平成22年の宮崎県での口蹄疫発生と、23年の東日本大震災の影響によ



大井幸男委員長

7月17日(木)〜18日(金)の両日、宮城県仙台市「ホテルメトロポリタン仙台」で全国の酪農生産者および関係者約600人が参集し、「第43回全国酪農青年女性酪農発表大会」が開催されました。  
大会1日目、半澤善幸監事の総合同会、二若信彦副委員長による開会宣言で開会、引頭玉枝副委員長による綱領唱和につづき、主催者として全国酪農青年女性会議・大井幸男委員長と本会・砂金甚太郎代表理事会長から挨拶がありました。

り、2年続けて中止となり、一昨年の神戸大会から再開することができました。

しかし、口蹄疫や震災の影響にとどまらず、飼料高騰に始まり、異常気象や円安による生産コストの増加など、近年、酪農に対する逆風が続き、生産基盤の弱体化が大きく懸念される状況にあります。更には、TPP交渉の進展等も加わり、将来の酪農経営に不安を覚える状況であり、積極的な投資に踏み出すことができません。ここ、東北地方においても、東日本大震災における、原発被害に対する除染対策や、放射性物質による風評被害等の問題が未だ続いて

おります。

しかし、将来を不安視しているだけでは、展望は開けません。このような状況の中でも、福島県における復興牧場のように、前進しようとする酪友がいることを、忘れてはなりません。皆さん、我々の酪農経営が、地域社会と我が国食料自給に必要不可欠であることへの自信と誇りを持ち、酪農の明るい未来を信じ、ともに進んで行こうではありませんか！厳しい酪農情勢ではありますが、本会としても、生産基盤の維持・拡大や、若手後継者への経営継承の手助けなどに対して、微力ながら尽力していくつもりでおります。

さて皆さん、本日は昨年の熊本大会から1年ぶりの再会です。大いに語り合い、旧交を温めてください。そして、本大会での交流が、皆様と、各地域の、ひいては日本の酪農経営の明日からの活力となることを心よりご祈念いたしました、私のご挨拶とさせていただきます」

続いて、農林水産省生産局畜産部畜産企画課 課長補佐 和田剛氏



砂金甚太郎会長

より、生産局長 佐藤一雄氏の祝辞が述べられました。「まずはじめに、全国から選ばれました発表者の皆様方に対しまして、心からお祝いを申し上げますとともに、皆様方のこれまでの御努力に対しまして、深く敬意を表する次第です。

また、本日お集まりの皆様方におかれましては、日頃より我が国の酪農・畜産行政に御理解・御協力を賜っておりますことに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、東日本大震災やそれに伴う原発事故への対応に関しましても、それぞれのお立場で引き続きご尽力いただいていることに改めまして御礼申し上げます。



農林水産省 和田剛課長補佐

さて、最近の酪農を巡る情勢ですが、飼養戸数・搾乳牛頭数ともに減少傾向で推移し、加えて猛暑の影響から25年度の国内生乳生産は、対前年比98%となり、26年度に入っても昨年度を下回る状況となっております。乳業メーカーからも国内生産の回復に期待する声が大きくなっている時であり、国産需要を失わないためにも生産回復が重要となっております。

農林水産省といたしましても、生産基盤の維持・回復は喫緊の課題と考えており、都府県酪農の基盤強化対策、新規就農者への経営継承支援や酪農ヘルパー等への支援に加え、地域ぐるみで収益力を向上させる取組への支援や、チーズ向け生乳の補給金への追加などを措置し、生乳基盤の回復に向けた後押しを行っているとところです。

また、現在、『食料・農業・農村基本計画』や、『酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針』の見直しの議論を始めたところであり、様々なご意見を伺いつつ、十年後を見据えたしっかりとした方針を打ち出したいと考えて

ております。

我が国酪農業は、安全で良質な畜産物を消費者に安定的に供給するのみならず、地域経済の維持・活性化等を通じ、国民生活に重要な役割を果たしております。

農林水産省といたしましても、生産者の皆様が、将来にわたり引き続き意欲をもって経営を続けられるようしっかりと対応してまいる所存であります。

こうした中、全国の酪農家の研鑽と交流を図る場である本大会は、大変貴重な機会であると考えております。本日もご紹介いただく、若い担い手や女性の方々の経営・生産技術・地域活動の貢献等に関する優れた取組を一つの参考として、特にこれから我が国酪農を担っていく若い方々が夢と希望を持って酪農経営に取り組まれることを期待しております。

最後に、本大会が多大な成果を収め、酪農の益々の発展に寄与することを心より期待申し上げますとともに、皆様方の益々の御発展と御健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます」

次に、宮城県知事 村井嘉浩氏

より、祝辞が述べられました。「御参会の皆様、ようこそ宮城県へおいでくださいました。県民を代表し、心より御礼申し上げます。平成23年3月に発生した東日本大震災に際しましては、全国の皆様から様々な御支援と温かい励ましを賜りました。これまでの御支援に対し、宮城県民を代表いたしまして、改めて感謝申し上げます。東日本大震災では、津波により、沿岸部は壊滅的な被害を受け、本県だけで1万人以上の方々がお亡くなりになりました。この悲劇を繰り返さないため、この3年間、高台移転や防潮堤などインフラ整備を始めとする復興に取り



宮城県 村井嘉浩知事

組み、街づくりなどでこれから解決する課題があるものの、復興に向け着実に歩みを進めております。また、日本で初めてとなる空港の民営化など、新しい取組にも挑戦しており、単に元に戻す復旧に留まらない、全国のモデルになるような新しいものを創造していく、創造的な復興に取り組んでおります。

酪農家を取り巻く状況は、東京電力福島第一原子力発電所の事故による風評被害や草地除染の他、生乳の減産や輸入粗飼料の高騰など、大変厳しい状況が続いております。このような中、本日は、経営発表と意見・体験発表の2つの部門で、全国から選抜された方々が発表されるということで、厳しい情勢の中でも、若い皆様が前向きに酪農経営に取り組まれておられることを、大変心強く感じております。本日の晴れの舞台で存分に想いを述べられ、会場の方々と有意義な意見交換がされることを期待しております。

被災地では、時間の経過とともに、人々から震災の出来事が風化

してしまうことを最も心配しております。皆様には、この機会にぜひ県内各地に足をお運びいただき、宮城県の豊かな海・山・大地が育む食材王国みやぎの味覚を御堪能いただきますとともに、御感じになった宮城のことを全国にお伝えいただき、1人でも多くの方がまた宮城を訪れてくださることを心から楽しみにしております。

3年後の平成29年9月には、全国和牛能力共進会が宮城県で開催されることが決まっております。関係機関一丸となって準備を進めておりますので、多くの方々の御参加・御来場をお待ちしております。

結びに、本日お集まりの皆様を始め、関係各位の皆様の方々の御発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします」

そして最後に、仙台市副市長 伊藤敬幹氏より、仙台市長 奥山 恵美子氏の祝辞が述べられました。「我が国の農業、酪農を力強く牽引されている皆様、杜の都仙台によるこそおいでいただきまして、107万の市民を代表して、心より歓迎申し上げます。また、

2日間にわたり、この大会がこのように盛大に開催されますことをお慶び申し上げます。

平成23年3月の大震災から3年余りが過ぎ、この間、被災地東北に対して、全国各地から多くの温かい御支援や御尽力をいただきました。この場をお借りして、改めて感謝を申し上げる次第でございます。おかげさまで、被災地では着実に復旧・復興が進んでおり、本市農業におきましても、津波により冠水した沿岸部の農地約1,800haほぼ全てにおいて、この春、営農を再開できるようになりました。しかしながら、畜産分野では、中山間地域の牧草地の除染作業や汚染牧草の処理が進まない



仙台市 伊藤敬幹副市長

など、依然として震災の影響が残っている農家がある状態でございます。

このような中、本大会が本市で開かれることは、復興に向けて頑張っている仙台、宮城地域の酪農家において、生産意欲の向上の一助となるものと考えているところであります。また、担い手である青年女性の皆様が、これまでの経営の中で培われた技術などを、大会を通じて共有されることは、日本の酪農の発展に寄与するものとして期待申し上げます。

来年3月には、ここ仙台において、第3回国連防災世界会議が開催されます。被災地が復興に向けて力強く歩みを進めている姿を、そして、未曾有の災害の経験から学んだ教訓を、東北から世界に向けて発信してまいりますので、皆様方の御支援をよろしくお願い申し上げます。

さて、杜の都仙台には、仙台城跡や瑞鳳殿、秋保・作並温泉などの観光スポットを始め、また牛タンや笹かまぼこなどの土産品はもとより、新しく開発された味とし

て、仙台づけ井や仙台あおば餃子、仙台マーボー焼そばなども売出し中でございます。せっかくの機会でございますので、ぜひ仙台の味覚をご堪能いただくなど、みちのく仙台を多いに楽しんでいただければ幸いです。

結びにあたり、全国酪農青年女性会議、全国酪農業協同組合連合会の皆様の益々の御発展と、御参加されました皆様の御健勝を祈念申し上げます、お祝いの言葉とさせていただきます」

開会式終了後、各地域の代表者6名による酪農経営発表が行われました。

第41回らくのうこどもギャラリーの表彰式を挟んだ後、各地域の代表者6名による酪農意見・体験発表をもって1日目の行程を終了しました。

2日目には、第5回酪農いきいきフォトコンテストの表彰式がありました。この企画は、牛乳の生産現場を消費者に知ってもらうことを目的として開催しており、今年には総応募数29点が全国大会で掲示されました。参加者投票による



こどもギャラリー特選 横山恵也さん

審査の結果、東北酪農青年婦人会議 玉根可奈さんの作品が見事特選に選ばれました(表紙掲載)。

続いて両部門発表者との質疑応答、審査講評・表彰、新旧委員紹介が行われ、引頭玉枝副委員長による大会宣言朗読の後、野村栄一副委員長による閉会の辞をもって全日程を終了しました。

酪農経営発表の部の最優秀賞には東北酪農青年婦人会議代表の高橋実さん、審査員特別賞には中部酪農青年女性会議代表の渡会智花さん、酪農意見・体験発表の部の最優秀賞には関東甲信越酪農青年女性会議代表の野口弘子さんが選ばれました。

## 酪農経営発表の部 審査講評

東北大学大学院農学研究科教授  
伊藤 房雄 審査委員長



審査委員を代表して講評ならびに審査結果を報告させていただきます。審査に当たりましては、酪農経営の収益性、経営の安定性・発展性、飼養管理技術水準、資源循環型酪農の実践、食品の安全性への配慮、組合・地域活動の貢献という6つの大会審査基準に基づき、厳正な審査を行いました。

発表された6名の方々は、それぞれ異なる立地条件の中で、地域特性を上手に活かしながら酪農経営の安定性と収益性の確保に努力されているだけでなく、自給飼料の確保、家畜排泄物の利活用、さらには地域活動にも熱心に取り組んでいる様子をうかがうことができ、審査委員一同大変感銘をうけました。

それでは、審査の中で特に印象に残った点、そして今後さらに期

待したい点について、発表順に申し上げます。

### 牛と共に歩む魅力ある 酪農経営を目指して

東北酪農青年婦人会議  
高橋 実さん



高橋牧場は山形県飯豊町の典型的な水田酪農地帯にあり、本人と両親の3人の労働力で経産牛55頭を飼養しています。高橋さんは、山形県農業大学校で基本技術を修得したのち、福島県「みちのくグリーン牧場」で1年間低コストと循環型酪農の飼養管理技術および消費者との交流の大切さを学び、平成11年に21歳で就農しました。

「学ぶことは真似ること」をモットーに、先人の優れた技術や技能を真似ながら試行錯誤を重ね、自らの飼養管理技術や経営管理技術を身に付けてこられました。その結果、「土づくり」「草づくり」「牛づくり」を基本とする循環型酪農を確立するとともに、

山酪農場ハセップ認証にも積極的に取り組み良質で高乳量の生産を実現しております。また、繁殖ソフトを活用して繁殖成績を向上させ、廃用産次6産を実現するとともに、現在は7産7万kg/頭の牛群づくりに取り組んでおります。今後は、自然豊かな飯豊町の特徴を活かした「農家民宿」の実現を目標に掲げておりますが、その基盤となる循環型酪農のさらなる拡充を期待したいと思っております。

### 国産飼料を使った 攻めの経営を目指して

関東甲信越酪農青年女性会議  
八木沢 直人さん



八木沢牧場は、都府県でも有数の酪農地帯である栃木県那須塩原市に立地し、本人と両親、姉、雇用1名の5人の労働力で経産牛107頭を飼養しています。八木沢さんは酪農学園大学を卒業後、道内での研修を経て平成13年に就農しました。

八木沢牧場の特徴は、なによりもまず那須高原という立地特性を活かしたTMRセンターの活用で、省力化と低コスト生産を実現している点にあります。また、飼料米やWCSを積極的に取り入れていることや、平成21年からは発情発見システムを導入して繁殖成績の向上に努めていること、さらには搾乳牛1頭当り乳量が11,222kgと高いことも特筆すべき特徴です。今後も、飼料米の可能性を追求していくとともに、和牛体外受精卵の移植や不耕起栽培による自給飼料生産に取り組んでいきたいと考えているようで、これまでに以上の生産の効率化と所得向上が期待されます。

### 愛知で北海道

—キャベツ産地で粗飼料自給率100%—

中部酪農青年女性会議  
渡会 智花さん



渡会牧場は、愛知県田原市の平坦な畑作地帯に立地しており、本

人とご主人の2人の労働力で経産牛40頭を飼養しています。

渡会牧場の最大の特徴は、都府県酪農で粗飼料自給率100%を実現している点にあります。かつて渡会牧場では、酪農の規模拡大に伴い過重労働により家庭崩壊の危機に直面しましたが、ご主人との話し合いで規模を縮小するともに粗飼料自給率を高め、無理のない、ゆとりのある家族経営を目指しました。その実現に向けて取り組んだのが、キャベツの一大産地である渥美半島の地域特性を活かした耕畜連携で、キャベツの間作としてソルゴー栽培を導入することでした。キャベツ農家と酪農家の双方にメリットがあることはわかっていることですが、それを実現する上でもっとも大切なことは、農地の出し手である地元キャベツ農家の信頼を得ることです。渡会さんは取組の早い段階でそのことに気づき、相手の立場に立つて信頼を得る工夫を施している点が素晴らしいと思われます。

今後は、長男の就農に伴い規模拡大を図る予定とのことですので

で、さらなる持続的安定経営の達成が期待されます。

### 淡路地域の特長を生かした酪農経営 —牛飼いとレタスのコラボレーション—

西日本酪農青年女性会議  
岡本 孝史さん



岡本牧場は、たまねぎ栽培で有名な兵庫県南あわじ市に立地しており、本人と両親の3人の労働力で経産牛24頭を飼養しています。

岡本牧場の特徴は、酪農関連の施設や機械を共同所有し、投資を抑えて生産費用の削減を実現していること、また自らもレタス栽培に取り組み堆肥投入の有用性を実証し、地元耕種農家の協力を得てWCSや稲わらサイレージの生産に取り組んでいる点にあります。酪農部門では、牛群検定を活用した個体能力の把握に重点を置き、ミルカーの定期点検などを通じて非常に衛生的な生乳を生産しております。

今後は、1名の常時雇用を確保

していきたいと考えており、レタス栽培との複合経営の規模拡大が期待されます。

### こだわりのコンパクト経営で 「強い酪農」をつくる

北海道酪農青年女性会議  
森下 智崇さん



森下さんが働く横川牧場は、酪農と畑作で有名な北海道訓子府町に立地しており、本人と奥様、奥様の両親の4人の労働力で経産牛50頭を飼養しています。

森下さんの特徴は、発表テーマにある通り「こだわりのコンパクト経営」にあります。「粗飼料にこだわる」「牛づくりにこだわる」「省力化にこだわる」「努力にこだわる」という4つの「こだわり」が、粗飼料自給率100%で購入した牧場を形作っております。入り婿である森下さんは就農3年目ですが、獣医や酪農仲間、雑誌などからの情報や自らの失敗経験な

どを独自の「牛ノート」にまとめ、義父のアドバイスを受けながら比較的短期間で経験知を高めていることは特筆すべき点です。

今後は、経営を取り巻く「外部環境」の変化に左右されない「強い酪農」を実現させたいと考えており、コンパクトでゆとりのある家族経営の模範牧場となることを期待しております。

### 牛と相談しながら 進める経営

九州酪農青年女性会議  
今村 浩星さん



今村さんが代表を務める(有)今村ふれあいファームは、福岡県久留米市に立地しており、本人と巡業員3名、研修生2名の計6名の労働力で経産牛186頭を飼養しています。

今村さんの特徴は、「搾る」ことから「牛を健康に飼う」ことへと発想を転換し、良質で安価な飼料を調達しながら200頭規模の

多頭飼育を実現しているとともに、久留米という都市地域において周辺住民の理解を得られるように環境対策にも懸命に取り組んでいることにあります。

また、良質で生産性の高い生乳生産を持続するために、従業員教

育にも力を注いでおられます。今後は、(有)今村ふれあい牧場の経営理念である「経営者のみならず従業員と家族さらには牛を含めたみんなが「幸せ」になれる牧場」となることを期待しております。

以上、今回発表された6名の方の経営は、いずれも各地域を代表する優れた経営でありますので、優劣を判断することは容易ではありませんでした。

その中で、(1)乳量を確保する観点から、高品質で生産性の高い生乳生産を実現しているかどうか、(2)低コスト生産に積極的に取り組むという観点から、飼料自給率が高いかどうか、(3)そして地域の酪友を増やしていくという観点から、若手リーダーとして主体的に地域活動を先導しているかどうか、という3点を総合的に勘案し、東北酪農青年婦人会議代表の高橋実さんの経営を最優秀とさせていただきます。

なお今回は、土地利用制約の厳

しい都府県、その中でも野菜作の産地において、工夫次第によって粗飼料自給率100%を実現出来ることを実証した渡会智花さんの経営に対して、審査員一同から特別賞を授与することが決定されましたことを付け加えます。

今回、発表された6名はいずれも地域特性をうまく活用され、極めて優秀な経営を実現されております。会場にお越しの皆様におかれましては、6名の方々の発表をお持ち帰りいただき、それぞれの経営や地域の酪農の発展のためにご活用していただければ幸いに存じます。

以上で講評ならびに審査結果の発表を終わります。

(酪農意見・体験発表の部は次号に掲載します)

## 各会議の集合写真



▲ 北海道酪農青年女性会議



▲ 東北酪農青年婦人会議



▲ 関東甲信越酪農青年女性会議

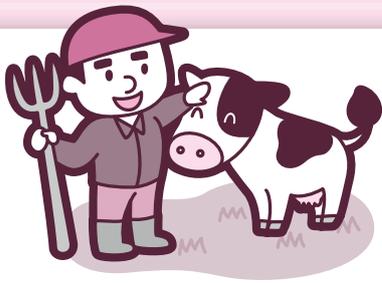


▲ 中部酪農青年女性会議



◀ 西日本酪農青年女性会議

来年は7月15日、16日に東京都台東区の「浅草ビューホテル」にて開催予定となっております。来年も、皆様にお会いできることを楽しみにしております。



# 若手後継者の 本音 Vol.9

ホンネ

## まずは土台作りから 現有能力を最大限に引き出す

今回は、**福島県小野町 今泉牧場**の後継者  
**今泉洋**さんにお話を伺いました。



### [経営概況]

所 属 福島県酪農業協同組合  
家族構成 経営主の今泉孝一氏(66才)、奥さん  
のウメさん(63才)、三男の洋さん  
(30才)  
飼養頭数 経産牛43頭、育成牛10頭

### 概況

今泉牧場は、福島県酪農業協同組合(但野忠義代表理事組合長)に属し、経営主の今泉孝一氏(66才)、奥さんのウメさん(63才)、三男の洋さん(30才)の3人で経産牛43頭、育成牛10頭を飼養しています。この地区ではいち早くフリーバーンやパーラーを導入し、その酪農技術はもちろん、見た目のスタイルも含めて近隣酪農家の憧れのご夫婦だったとか。

今回は、実家に戻って6年目になる洋さんにお話を伺いました。

### 就農のきっかけ

直接的なきっかけは、6年前に祖母が亡くなったことでしょうか。

4人兄弟の三男ですが、兄2人は早々と家を出ており、私自身も仙台の大学へ進学し、卒業後も勤めをしていました。牛舎は両親だけでやっていましたが、祖母の死により家事全般が母にかかってきたところに、今度は父が作業中のケガで失明しかかったりで、これは誰かが戻って手伝わなければという状況になったのです。兄弟のうちで私が戻った理由は…、消去法でしたね(笑)。

### 現状と今後の目標

子供のころからファン出しゃエサやりぐらいは手伝うのが当たり前の家庭でした。仙台にいた学生の時も帰省のたびに手伝っていました。当時組合長(旧…小野地区酪農業協同組合)をやっていた父は不在がちで、母が1人で搾乳をやるような状況でした。その頃は牛舎に対して過密なほど飼養しており、喰い負けする牛が出てきて、やがてお産のトラブル、熱射病、乳房炎などが多発し、廃用牛が頻発していました。

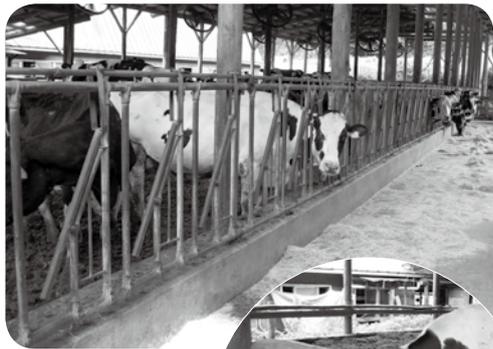
当時から思っていましたけど、2人の作業

初代牛舎と搾乳処理室 ▶



▼今は育成、乾乳牛舎として利用





▲ そろそろ交換したい  
運動スタンション



そろそろ改修したい水槽 ▶

時間は長すぎじゃないかと。例えば搾乳に4時間ですよ。もう少し効率的にできるのではと提案しましたけれど、多数決で却下されてしまいました。とにかく今までのやり方をまず覚えろと。この牧場を立ち上げた祖父もそうだったと思いますが、すべて自分でこなし、人件費をかけずコストダウンして利益を増やすという考えなのです。搾乳やり工サやり、畑仕事など一通り教えてくれました。今思えば、やり方も知らずに合理化だけで省いたら、いざ自分がやらなければいけない時に何もできずにつろたえちゃうことになっていたかも。そう思えば、教えてくれてありがとうですね。本当は今でも朝から夜遅くまで牛一辺倒というのはちょっと…(笑)。

育成など、外部に出せるものは出したいで

すね。やっぱり我が家では省力化が必須です。最近では全酪連の預託事業を利用することを検討しています。自家育成牛は、分娩後にフリーバーンに入れても、群飼に慣れないためか喰い負けを起します。預託先で群飼に慣れていけば、戻ってきてからうちの牛舎への慣れが早いでしょうから。

### 課題と将来について

戻った当初に比べると、5〜6年経験したおかげか、両親は私の意見も聞き入れてくれるところが出てきたような気がします。実は、将来を任せるってまだ言われてないんですよ。今日、明日じゃなくとも『〇年後には…』とか言ってくれば、こっちも気の入れようが違うかも(笑)。

震災後、施設の老朽化が目立っちゃって。運動スタンションはガタがきていますし、牛舎の雨漏りも早いうちに手を付けなければ。水槽も古いので十分な幅がないし、水漏れして足場が悪いし。

規模拡大はまだ先の話ですね。今は使えるところは使い、必要なところは改修しながら、既存施設の能力をフルに発揮できるようにしたいですね。育成・乾乳牛舎は初代の牛舎を使っているの、これも何とかしなければ。まずは、しっかりと土台作り。牛群もいい状

態で回ってきましたし、この乳量を維持できるような牛群管理を充実させ、父と2人で回せるようになりそうです。母が牛舎に入らなくとも回せる状況になりました。もう搾乳に4時間もかけていませんよ。

地元に戻った洋さんは、青年部では副会長、改良同志会部会長など役が回ってくるようになります。今では中心的存在になりました。今後の活躍が期待されると思います。

今泉さんより

### 全国の若手後継者の皆さんへ一言!

創始者や親たちとは違う意見が出る人が多いでしょう。あれをしろ、これをしろといういろいろな言われることもあるでしょうが、お互いに話をし、ブレずに自分なりにやっていけばいいのでは。親子バランスは我が家でも課題ですけど。



会合に出ると大先輩ばかりで同世代が少ないのがさみしいですね。酪農家の平均年齢を下げ、元気ある産業にするために、皆さん手を取り合ってください。

東京  
支所発

## 全酪連那須青木TMRセンター竣工！

那須青木TMRセンターの竣工式が7月18日(金)、那須塩原市青木の同センターで開催されました。全酪連の施設としては全国8か所目となり、生産能力は月1千tで、「県内でも最大級」となっています。

飼料保管棟と製品保管棟を備えた約1,400㎡の建物で、原料庫からミキサー及び製品保管庫の高低差を利用して作業を単純化。ライン設備をなくすことでメンテナンス箇所を極力削減した構造となっています。

この青木地区は、生乳生産量本州一の栃木県においても特に酪農が盛んな地区であり、今回のTMRセンター建設には酪農生産者及び酪農組合等から大きな期待が寄せられています。

竣工式には関係者約60名が出席し、来賓挨拶



竣工式

で阿久津憲二那須塩原市長より「これまで農家が配合していた飼料生産を一手に担える施設完成を機に当地域の基幹的産業の酪農がますます活性化することを期待したい」との言葉を頂きました。

午後からはホテルエピナール那須に場所を移し、施主（弊会赤坂常務）挨拶の後、栃木県那須農業振興事務所 小瀧勝久参事よりご祝辞を賜り、那須青木TMRセンター及び酪農業界のますますの発展を祈念し、披露パーティーが開催されました。(S.T)

# 新規就農 経営移譲

## を希望される方

酪農ヘルパー全国協会ホームページの新規就農情報または全国農業会議所の全国新規就農相談センターにアクセスしてみてください。

### 酪農ヘルパー全国協会



<http://d-helper.lin.gr.jp/newfarmer/index.html>

### 全国新規就農相談センター



<http://www.nca.or.jp/Befarmer/index.php>

全酪連のホームページからも入れます。

<http://www.zenrakuren.or.jp/>



全酪連ホームページのトップ

↓  
右下リンク

↓  
新規就農情報 [(-)酪農ヘルパー全国協会]  
新規就農情報 [全国農業会議所]

福岡  
支所発

## ふくおか県酪農業協同組合 尾形文清代表理事組合長 旭日双光章受章記念祝賀会

去る6月28日(土)、春の叙勲にて旭日双光章を受章された、ふくおか県酪農業協同組合 尾形文清代表理事組合長の受章記念祝賀会が、福岡市「ホテルニューオータニ博多」で盛大に開催されました。

尾形組合長は、長年にわたり福岡県はもとより、九州、日本の酪農業の発展に大きく貢献したことが認められ、栄えある旭日双光章を受章されました。

当日は、九州をはじめ、全国各地から酪農関係団体、行政関係者等200名が出席しました。

祝賀会は、(公社)日本獣医師会会長 蔵内勇夫氏の発起人代表挨拶によって幕を開けました。来賓挨拶では、福岡県知事 小川洋氏、衆議院議員 鳩山邦夫氏、(一社)Jミルク 浅野茂太郎会長、全国農業協同組合連合会会長 中野吉寛氏がそれぞれ祝辞を述べられ、尾形組合長の功

績を讃えられました。

続いて、全国畜産業農業協同組合連合会 山内正孝代表理事会長による記念品の贈呈並びに尾形組合長の2人のお孫さん、ふくおか県酪農業協同組合職員からの花束贈呈があり、尾形組合長は満面の笑みを浮かべておられました。

式典の最後に尾形組合長により謝辞が述べられました。奥様の興世さんと一緒に登壇された尾形組合長は、出席者、そして奥様への感謝の意、そして今後も酪農、畜産業の発展に尽力されることを力強く述べられ、会場からは割れんばかりの大きな拍手が送られました。

式典に続いての祝宴は、来賓全員による鏡割り、そして本会砂金甚太郎代表理事会長の乾杯により幕を開けました。会場は尾形組合長の受章を喜ぶ声に満ち、終始和やかな雰囲気になりました。(Y.K)

砂金会長による乾杯 ▶



◀ 尾形会長謝辞



▲ 勲章

鏡割り ▶ 氏 旭 双光章受章記念祝賀会



◀ 福岡県知事祝辞

乾乳期・移行期専用配合飼料

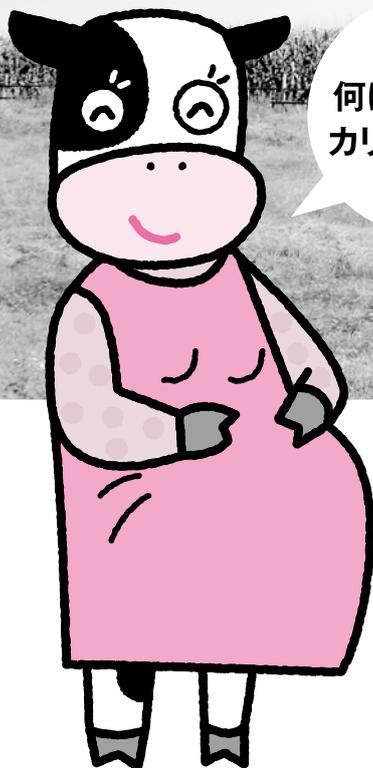
# DRY&FRESH SE

ドライ&フレッシュSE

移行期対策にお悩みですか?  
おまかせ下さい!

## 移行期牛管理のゴール

- 高泌乳の達成
- ボディ・コンディションの維持
- 代謝障害を最小に
- 繁殖の向上
- 健康な子牛の誕生



何はともあれ  
カリウム低減!

## DRY&FRESH SE ドライ&フレッシュSE

- クロースアップ期に必要なミネラル・ビタミンを強化!  
マグネシウム、イオウ、セレンも配合しました。
- ビートパルプをふんだんに配合し、カリウム低減と、  
分娩後の乾物摂取量の向上を実現します。
- 『アリメット』『ソイプラス』を配合し、ルーメン・バイパス・  
メチオニンとリジン強化しています。



20kg

詳しくは最寄りの全酪連支所までお問い合わせください。



Your Partner 全酪連

購買部 03(5931)8007



札幌支所 011(241)0765  
釧路事務所 0154(52)1232  
帯広事務所 0155(37)6051  
道北事務所 01654(2)2368

仙台支所 022(221)5381  
北東北事務所 019(688)7143  
東京支所 03(5931)8011  
北関東事務所 027(310)7676

栃木駐在員事務所 028(689)2871  
名古屋支所 052(209)5611  
大阪支所 06(6305)4196  
中四国事務所 086(231)1120

近畿駐在員事務所 0794(62)5441  
三次駐在員事務所 0824(68)2133  
福岡支所 092(431)8111  
南九州事務所 0986(62)0006



左から伊藤利成さん、靖昌さんと美喜さん(子供はご親戚) ▲

No.255

伊藤牧場

兵庫県明石市

## 都市型酪農の未来を切り拓く！

### 地域の紹介

今回紹介します伊藤牧場は、兵庫県明石市に位置します。明石市は、県南東部の東播磨地域にあり、また、誰もが知っている日本標準時子午線、東経135度がとおる町として親しまれています。東西は神戸市と加古川市に隣接し、南は明石海峡大橋がそびえる瀬戸内海に面しています。そのため、昔から鯛やタコを中心とした水産業が盛んな「魚の町」でもあります。

市街は、東西に細長く、高低差の少ない平坦な街を形成し、瀬戸内特有の温暖で降雨量が少ない気候で、古くから農業を支える溜め池や水路等の灌漑施設が発達してきました。阪神都市圏への通勤も便利なことから農地の宅地化が進み、市域面積のうち農用地は14% (709ha) となっています。一方、消費地に近いというメリットもあり、都市近郊型農業が展開されています。

伊藤牧場が所属する東播磨農業協同組合（小堀治一代表理事組合長）は、組合員53戸、25年度生

乳生産量22,954t（シェア25%）で県内第2位の生産量を誇る組合です。



### 経営概況

伊藤牧場の家族構成は、牧場主の伊藤利成さん（69）、奥さまの益子さん（66）、三男で後継者の靖昌さん（29）とお嫁さんの美喜さん（28）です。牧場は住宅地の中にあり、小学校と幼稚園が近接しています。まさに都市型酪農を営まれています。

飼養規模は、搾乳牛頭数26頭、乾乳牛4頭です。育成牛は全酪連北海道預託を利用しておられます。牛舎は写真でわかるように対尻式つなぎ牛舎です。利成さんの

担当は、経営管理全般、哺育・育成・乾乳と除糞、靖昌さんは、就農から既に11年の経験を積まれ、給餌、搾乳、除糞及び種付けを担当されています。担当する業務上、2004年には家畜人工授精師免許を取得されるほどの努力家です。給与メニューは、配合飼料と自家配に始まり粗飼料(チモシー・アルファルファ)と添加剤(VIPヘルス)となります。後述する環境改善の効果も加わり、牛検の補正乳量は1頭当たり約11,000kgとなっています。

### 設備改善と6次産業へ

後継者の靖昌さんは、ご自身が同地で永く酪農経営がしたいとの考えから、お父さんと構想を練り、近隣住民の酪農業に対する理解を得ることが基本的に重要と認識され、一昨年から兵庫県酪連の上居事業部次長の指導のもと、搾乳牛舎・乾乳牛舎改造、細霧冷房設備の取り入れ及びトンネル換気等の改築・改善に取り組みされました。その結果、搾乳牛はよく横臥するようになり、取材した時も牛

舎に入るなり強い風量を体感しました。

更に、酪農業に対する理解を深める方法として、長い間温めていた考え、すなわち自分で搾った生乳を使用した製品(アイスクリーム)を近隣の住民(消費者)に味わってもらい、酪農と美味しいアイスクリームの両面から理解向上の相乗効果を図れるよう、アイスクリーム製造設備とショップの建設を決定したそうです。

この6次産業化への取組みを指導されたのも上居次長で、強く補助事業の利用を推奨されたために決断ができたと感謝されています。靖昌さんの奥様である美喜さんは、現在販売を担当されていますが、ショップ構想から、酪農仲間ではアイス販売を手掛けている岡山の安富牧場等に視察に行かれたり、機器メーカーが開催する製造講習会に参加されたりと、着々と準備をされてこられました。そして、昨年の5月にカワイイ！ジェラートショップ、伊藤牧場のジェラート屋さん、ぐらな〜とが牧場の隣にオープンしました。牧場



ジェラートショップ



ジェラートショップ担当の美喜さん、妹さんとお子様



ジェラートショップ前

▶ 搾乳牛舎



◀ 食後にくつろぐ搾乳牛



トンネル換気の牛舎

搾りの新鮮な生乳と地元の食材も取り入れたアイテムにこだわり、素材の美味しさを味わってもらい、合わせて生産される牧場の役割を理解してもらおうことで、地域が必要とされる存在感を演出しています。都市型酪農の典型である点を実に有利に活用され、近接の

幼稚園児や小学生が気軽に訪れる牧場に変身しています。

ジエラートシヨップが牧場に与えている影響

牧場では、利成さんが、ろくの張りや発情について特に注意して日常管理を行い、エサを十分食べ

た搾乳牛がゆっくり横臥している状態を目標としてこられたそうです。

店舗オープン後に、何か変わったことはありませんかと伺ったところ、以前にも増して、除糞に心がけるようになったと説明して頂きました。シヨップのお客さん

### 牧場の将来

が、牛舎を見学したり、幼稚園帰りの園児が気軽に牛舎を覗くようになって、牛舎内外の環境にも気を配るようになられたそうです。美味しいアイスクリームの味や素材が生産される牛舎の清潔さなどが一体となって伊藤牧場の味を演出しているようです。

先にも触れましたが、後継者の靖昌さんは、現在地で永く酪農の継続を望まれており、地域と共生できる酪農、地域住民に酪農の存在が必要とされる産業としての酪農を共有していきたいと希望されています。

規模拡大等を求める従来型の将来像でなく、これからの新しい酪農経営の在り方を家族で担っていく熱意が感じられます。

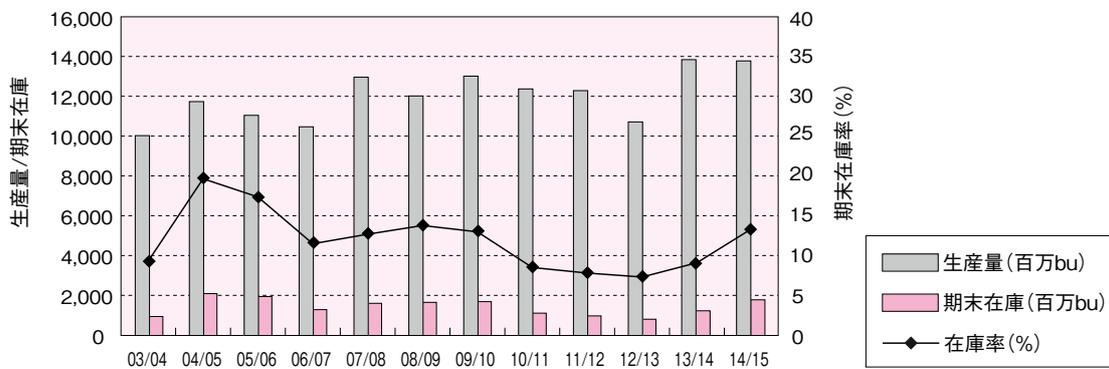
### 最後に

折しも、もうすぐご家族が増えるご予定と伺いました。伊藤家に新しい希望が誕生され、伊藤牧場が地域に貢献する存在となられますよう、ご期待申し上げます。

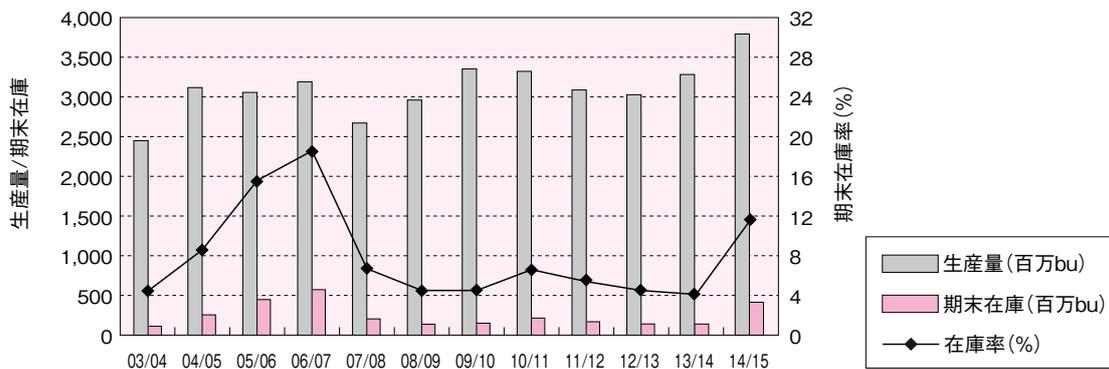
# 原料情勢 平成26年7月

<p>7月11日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想</p>	<p>【13/14年産】 作付面積95.4百万(前月95.4百万) エーカー、単収158.8 (158.8) bu/エーカー、生産量139億2,500万 (139億2,500万) bu、総需要量135億3,500万 (136億3,500万) bu、期末在庫12億4,600万 (11億4,600万) bu、在庫率9.2(8.4)%。</p> <p>【14/15年産】 作付面積91.6百万(前月91.7百万) エーカー、単収165.3(165.3)bu/エーカー、生産量138億6,000万(139億3,500万)bu、総需要量133億3,500万(133億8,500万)bu、期末在庫18億100万(17億2,600万)bu、在庫率13.5(12.9)%。</p>
<p>トウモロコシ 相場動向</p>	<p>シカゴ相場は440¢台の値動きだったが、米国産地北西部の天候が回復見通しになったこと、予想を大きく上回る四半期在庫数量の発表により400¢を割り、さらに7月以降に一部地域で受粉期が始まったとの情報が入るとさらに値を下げ、380¢を下回って推移した。今後もトウモロコシの生育にとっては良好な気候が続く見通しのため、豊作による下げ相場が期待される。</p>
<p>国内産大豆粕</p>	<p>米国産大豆需給予想の13/14年見通しは、需要が減少し、期末在庫見通しは1億4,000万 (1億2,500万) bu、在庫率4.1 (3.68) %となった。14/15年見通しは、需要・供給ともに増加し、期末在庫見通しは4億1,500万 bu、在庫率は11.7(9.42)%。シカゴ大豆相場は、トウモロコシ同様に豊作予想で、天候も良好のため下げ相場。国産大豆粕について、生産量は例年並みの低位安定で推移しているが、比較的安価な輸入品に需要がシフトしていることから若干の余剰感がある。輸入品価格は主輸入元である中国の搾油マージンが改善しつつあるが、需要も回復しており、価格は堅調に推移している。</p>
<p>糖糠類</p>	<p>国産フスマの発生量は減少傾向だが、夏場の暑熱や豚PED等の影響から飼料用の需要減少により均衡を保っている状態。今後どちらかの増減があれば需給はひっ迫する可能性がある。グルテンフィードの発生量は増加。値下げ幅が限定的であったため配合率の増加は見られず、また、フスマ同様に豚PEDの影響で飼料用の需要減退のため余剰感が生まれている。</p>
<p>海上運賃</p>	<p>南米で発生した停船の発生が少ないこと、石炭が不調なことから稼働可能船腹が増加しており、軟調な推移が継続している。しかし、中国の鉄鉱石の輸入が好調であり、秋に米国新穀輸出が旺盛になるとの見方から、今後は船腹需給がタイトになり、価格上昇の可能性あり。</p>

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移

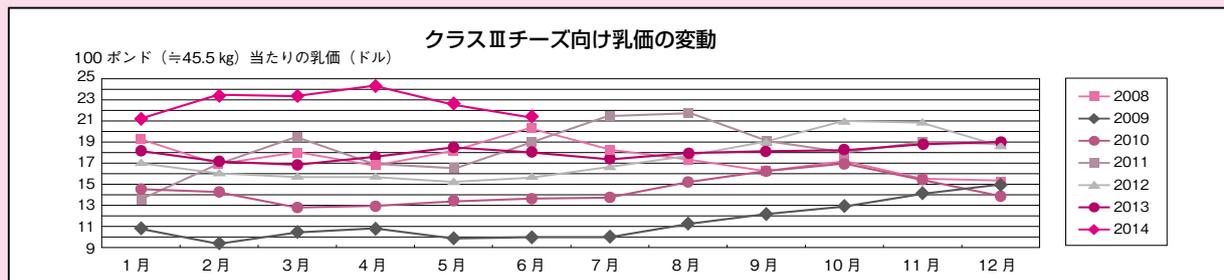


米国産大豆生産量と期末在庫の推移



# 輸入粗飼料の情勢 平成26年7月

北米コンテナ船 フレート	北米西海岸での労使交渉に進展は見られず、最悪の場合ストによる各港の閉鎖も懸念されていたが、米国全体の経済に与える影響も考慮し、協約がない状態でも港湾作業を通常通り行うことが発表された。しかしながら、予断を許さない状況に変わりはなく、緊張感は続くものとみられる。
米国の乳価動向	14年4月の\$24越えの価格よりは軟化しているものの、未だに高い水準で推移している。損益分岐点は\$17とされているため、酪農家は引き続きアルファルファを積極的に買える環境にあると言える。
ビートパルプ	【米国産】14年産作付が終了。主産地は多雨傾向で、生育には良好とは言えない天候が続いている。かねてから欧州の引合いが強く、中国産の輸出向けがゼロと予想されていることから、産地価格は堅調に推移している。 【中国産】13年産の作付面積は前年よりも減少しており、国内向け需要もさらに増えている模様。輸出数量はほぼゼロで推移するという予想が多数を占める。
アルファルファ	【ワシントン産】産地では1番刈の収穫が終了。2番刈の収穫が進む。雨当たり被害は1割程度で良好な作柄と伝えられていたが、風が強クドライ気味な品質の仕上がり。産地価格は高騰しているが、米国内酪農家の積極的な買付により余剰はあまりない見込み。 【オレゴン産】産地では1番刈の収穫がほぼ終了。雨当たり被害はクリスマスフォールズで5%以下となったが、クリスマスバレーは収穫時期に降雨があり、50%と差が見られる。産地価格は引き続き、非常に高値で推移している。 【ユタ産】1番刈の収穫が終了。雨当たり被害はほぼなし。7月中旬から2番刈の収穫が始まる見込み。 【ネバダ産】1番刈の収穫が終了。40～50%の雨当たり被害が発生したが、米国内向けに成約が終了している。干ばつの影響で農業用水が不足し、2番刈で終了する圃場も出てくるのが懸念される。 【北カリフォルニア産】干ばつの影響を最も受けている地域で、農業用水の不足により2番刈で終了する圃場も多く出てくるのが懸念されている。全米一の生乳生産地帯であり、引合いは非常に強く、輸出向けは手が出せないほど価格が高騰している。 【インベリアルバレー産】14年産作付面積は前年比104%。産地では3番刈の収穫が終盤戦を迎えており、早い圃場では4番刈の収穫が始まる。産地価格は軟化傾向にあるとも伝えられているが、一般的に成分・品質が落ちるサマーヘイと呼ばれる発生が中心となることが大きな理由。
チモシー	【米国産】作付面積は前年比5～10%増で、価格も軟化傾向と伝えられていたが、日本向けの強い引合いを受けて、一転して値上がりしているのが現状。6月下旬に雨当たり被害も発生しており、産地価格はさらに堅調に推移している模様。 【カナダ産】主産地での14年産作付面積は増加することが予想されている。カナダと中国の政府間交渉により、カナダ産チモシーの中国向け輸出が解禁になったと伝えられている。まずは中間から下のグレードが中心の需給になると予想されているが、動向には注意が必要。
スーダン	【インベリアルバレー産】小麦の作付面積が減少したことから、早播きスーダンの作付面積は前年対比108%と増加した。産地では、1番刈の収穫がほぼ終了した。温暖な気候のため、昨年より10日から2週間早い進捗。日本向けの引合いが強く、産地価格は強含みで推移する見込み。
クレイン グラス	インベリアルバレーの6/15時点での作付面積は前年対比102%。現在3番刈の収穫が始まろうとしている。天候も問題がないため良品の発生が期待されるが、韓国向けの引合いが強く、産地価格は堅調に推移している。
バミュータ	インベリアルバレーの6/15時点での作付面積は、前年対比92%。種子の生産意欲が旺盛なことから、14年産のバミュータストローの生産は増えても、バミュータハイの生産量は減少する見込み。
ストロー類	14年産の米国産ストロー類の作付面積は昨年よりも増加する見込み。トールフェスクは6月下旬から、ペレニアルライグラスは6月中下旬から収穫が開始される。
オーツヘイ	13年産は、雨当たり被害はあるものの大半が軽い雨で済んでいるため、ハイグレード品は限定的で、見た目がきれいなローグレード品が多く発生している。ハイグレード品の価格は強含みで推移しているものの、中間・ローグレードの価格は弱含みで推移しており、日本・韓国・中国向け全て荷動きが順調。生産量が例年の1.5倍で15年への繰越在庫が多数発生する見込みだったが、特に中国向けで飛躍的に輸出量を伸ばしているため、予想より余剰感はなくなりつつある。産地では14年産の播種が終了。どの産地でも4-5月に降雨があり、土壌水分に大きな問題はないと言われているが、オーツヘイより播種時期が早く、安定的な収益が見込める小麦やキャノーラの作付が増えていくことから、14年産作付面積は10%以上も減少していると予想されている。



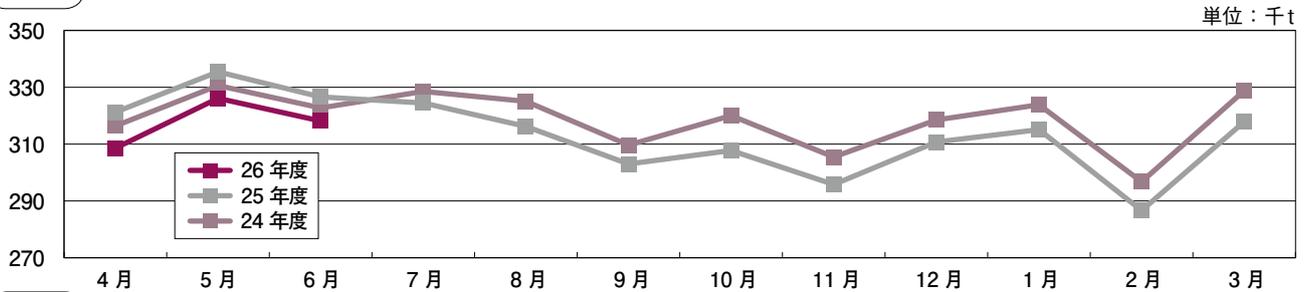
# 生乳受託販売乳量

## 受託販売乳量

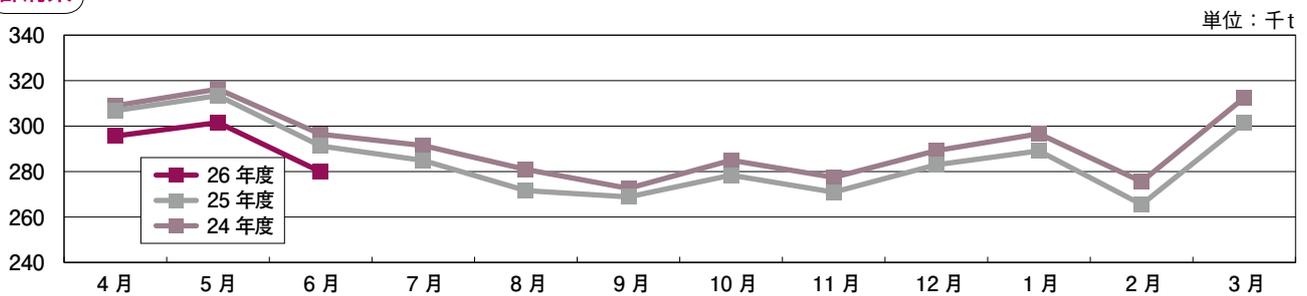
全国 598,053t で、前年同月比 19,795t(3.2%) 減少 都府県 279,906t で、前年同月比 11,340t(3.9%) 減少

北海道 318,148t で、前年同月比 8,456t(2.6%) 減少

### 北海道



### 都府県



## 用途別販売数量

飲用向 291,248t で、前年同月比 63t(0.0%) 減少

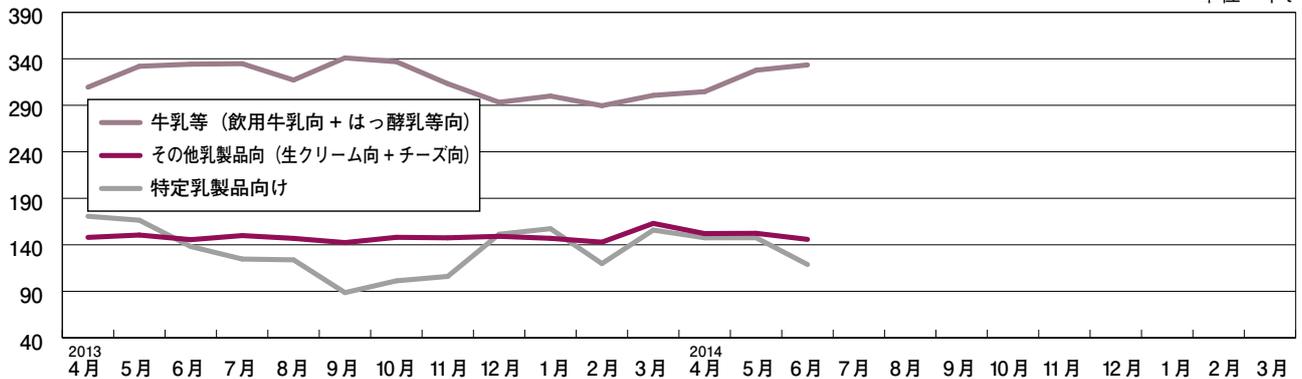
はっ酵乳向 42,139t で、前年同月比 720t(1.7%) 減少

クリーム向 106,391t で、前年同月比 600t(0.6%) 増加

チーズ向 39,453t で、前年同月比 275t(0.7%) 減少

特定乳製品向 118,822t で、前年同月比 19,338t(14.0%) 減少

単位: 千t



## 各地の需給動向

\*前年比については、閏年修正を行っておりませんのでご注意ください。

【東北】6月の生産は前年比 96.1%。日量は下旬に向けて減少傾向。需要は、生産の減少からタイトな状態からのスタートとなり、基本的にそのまま不足感のあるまま推移した。その結果、飲用牛乳等前年比 99.4%、特定乳製品向は前年比 76.2%と大きく減少した。

【関東】6月の生産は全体で前年比 96.2%。日量は下旬にかけ徐々に減少。一方需要は、上旬から中旬にかけ、全体的に飲用処理が好調に推移し、逼迫した。その結果、飲用牛乳向は前年比 99.5%、特定乳製品向は前年比 62.6%と大きく減少した。

【東海】生産は前年比 95.7%。上旬から下旬にかけ、日量は減少傾向。特に愛知の減少が大きい(前年比 94.2%)。飲用牛乳向は前年比 95.0%、特定乳製品向は前年比 135.7%。

【近畿・中国・四国】生産は目立つピークがないまま日量減少傾向。全体で近畿 94.3%、中国 94.9%、四国 94.9%。一方処理動向は、5月下旬から好調に推移した。(飲用牛乳向: 近畿 94.4%、中国 93.8%、四国 99.5%)

【九州】生産は前年比 97.7%。処理は特売自粛等で抑えた結果、飲用牛乳向は 95.8%となった。特定乳製品向は前年比 93.5%。

# 用途別生乳処理量

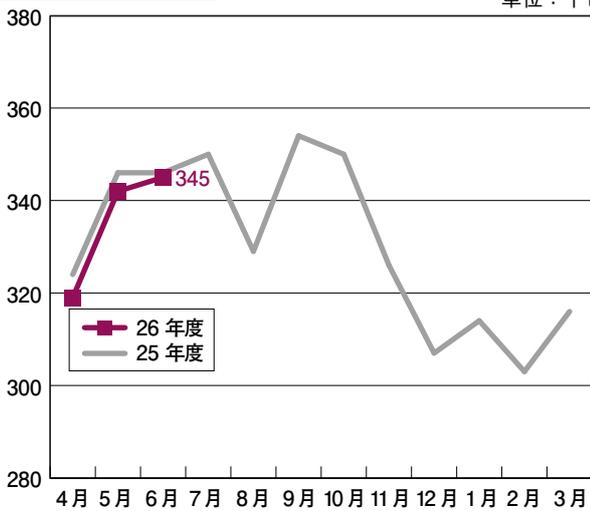
単位：千t

年月	生乳生産量	用途別処理量計							年月	生乳生産量	用途別処理量計						
		乳製品向									乳製品向						
		牛乳等向 ①	特定乳製品向 ②		その他乳製品向			牛乳等向 ①			特定乳製品向 ②		その他乳製品向				
クリーム向 ③	チーズ向 ④		クリーム向 ③	チーズ向 ④	クリーム向 ③	チーズ向 ④											
2013. 4月	650	645	324	321	171	150	106	44	2014. 4月	627	622	319	303	148	155	112	43
5月	671	666	346	320	167	153	107	46	5月	650	645	342	303	148	155	112	44
6月	638	633	346	287	141	147	105	42	6月	619	614	345	269	120	149	108	41
7月	632	627	350	278	126	151	109	42	7月								
8月	608	603	329	274	127	147	107	40	8月								
9月	593	588	354	235	91	144	107	37	9月								
10月	608	604	350	253	104	150	109	40	10月								
11月	588	583	326	257	108	149	111	38	11月								
12月	616	612	307	305	153	151	114	37	12月								
2014. 1月	626	622	314	308	158	150	103	47	2015. 1月								
2月	573	568	303	265	121	144	102	43	2月								
3月	643	638	316	322	159	163	117	47	3月								
年度計	7,447	7,390	3,964	3,426	1,626	1,800	1,298	502	年度計	1,896	1,881	1,006	875	416	459	331	128

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

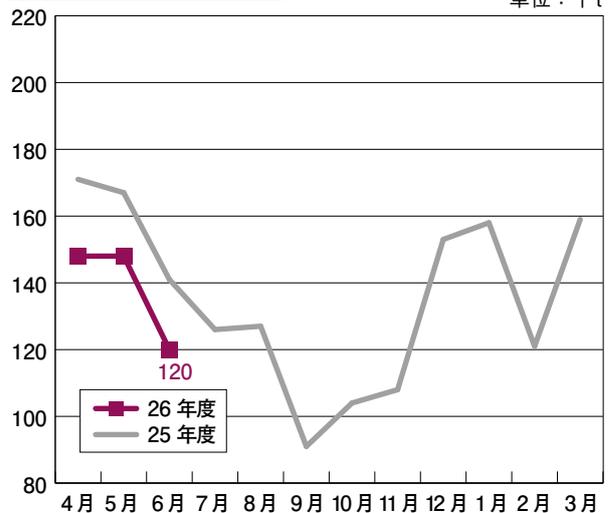
## ① 牛乳等向処理量

単位：千t



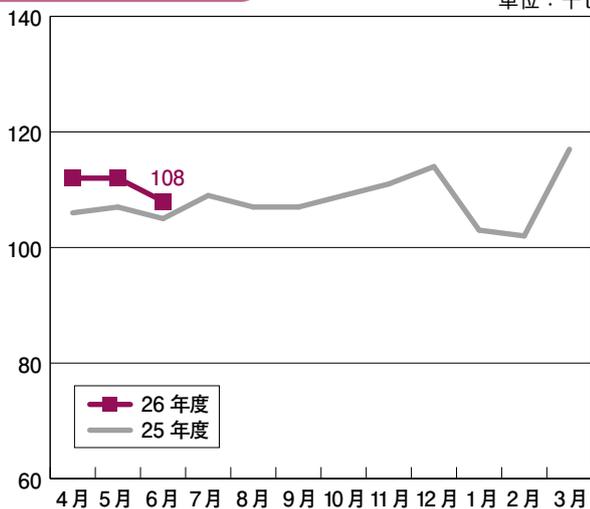
## ② 特定乳製品向処理量

単位：千t



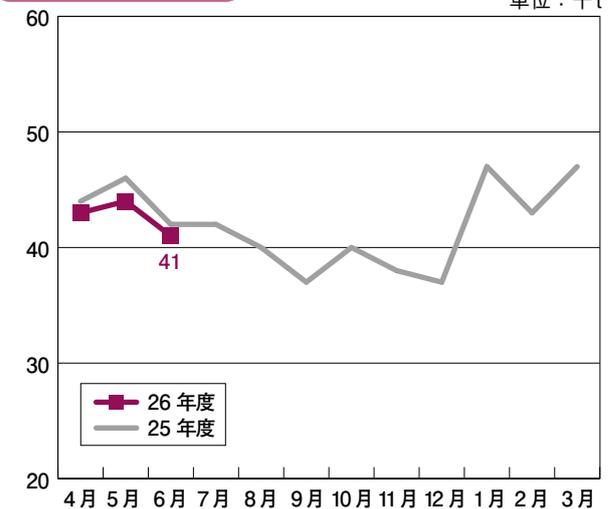
## ③ クリーム向処理量

単位：千t



## ④ チーズ向処理量

単位：千t



## 特定乳製品（脱脂粉乳・バター）の国内生産及び出回り量の推移

※生乳需給動向の指標となる特定乳製品の生産及び消費の動向です。

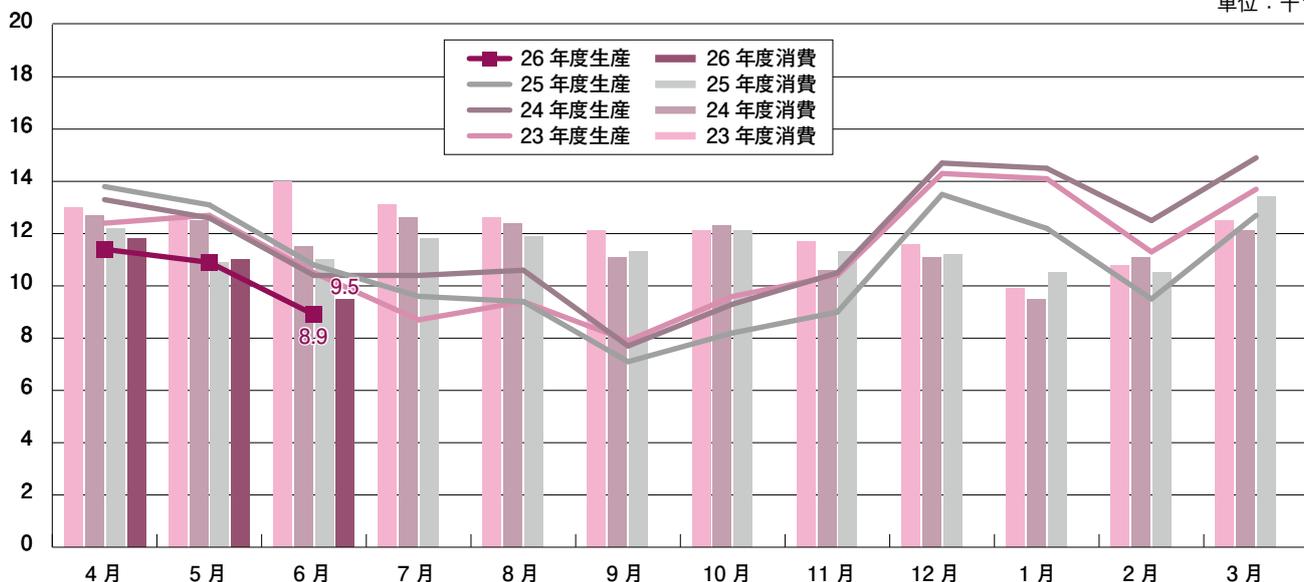
単位：千t

年月	脱脂粉乳生産量	脱脂粉乳消費量	バター生産量	バター消費量	年月	脱脂粉乳生産量	脱脂粉乳消費量	バター生産量	バター消費量
2013. 4月	13.8	12.2	7.0	6.1	2014. 4月	11.4	11.8	6.3	6.4
5月	13.1	10.9	7.0	5.5	5月	10.9	11.0	5.7	5.0
6月	10.8	11.0	5.7	5.8	6月	8.9	9.5	4.9	4.7
7月	9.6	11.8	5.1	5.8	7月				
8月	9.4	11.9	5.1	5.7	8月				
9月	7.1	11.3	3.6	5.0	9月				
10月	8.2	12.1	3.9	5.5	10月				
11月	9.0	11.3	4.2	6.2	11月				
12月	13.5	11.2	5.5	7.3	12月				
2014. 1月	12.2	10.5	6.5	4.9	2015. 1月				
2月	9.5	10.5	4.8	5.7	2月				
3月	12.7	13.4	6.0	6.9	3月				
年度計	128.8	138.0	64.3	70.5	年度計	31.2	32.3	16.9	16.1

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、農畜産業振興機構、農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課調べ

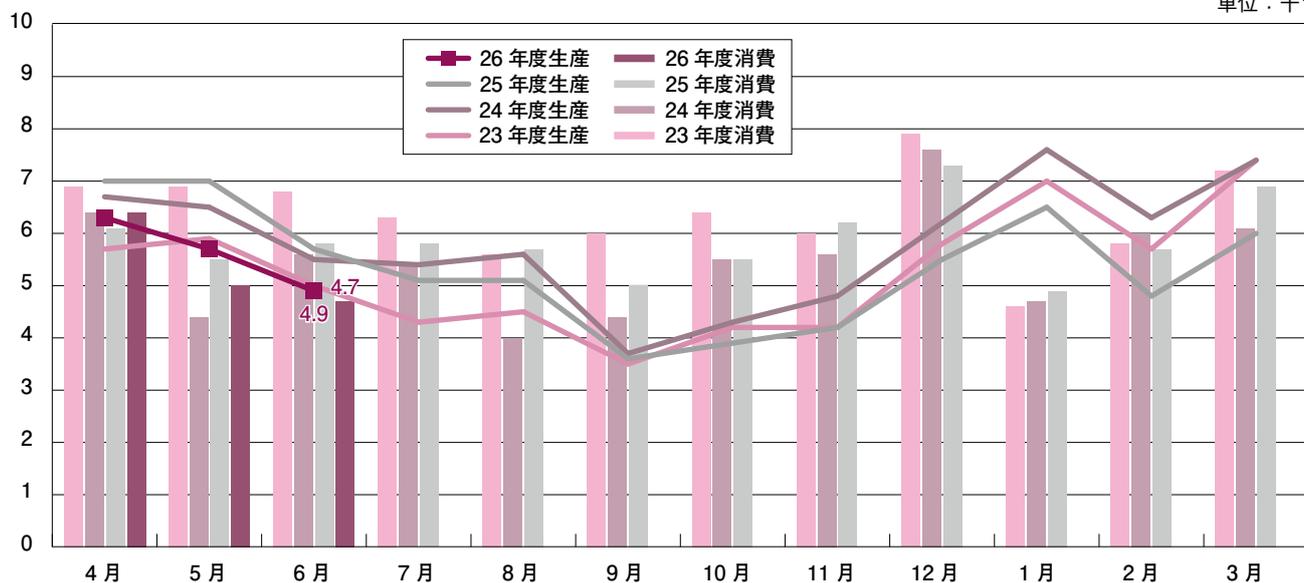
### 脱脂粉乳の生産及び出回り量推移

単位：千t



### バターの生産及び出回り量推移

単位：千t

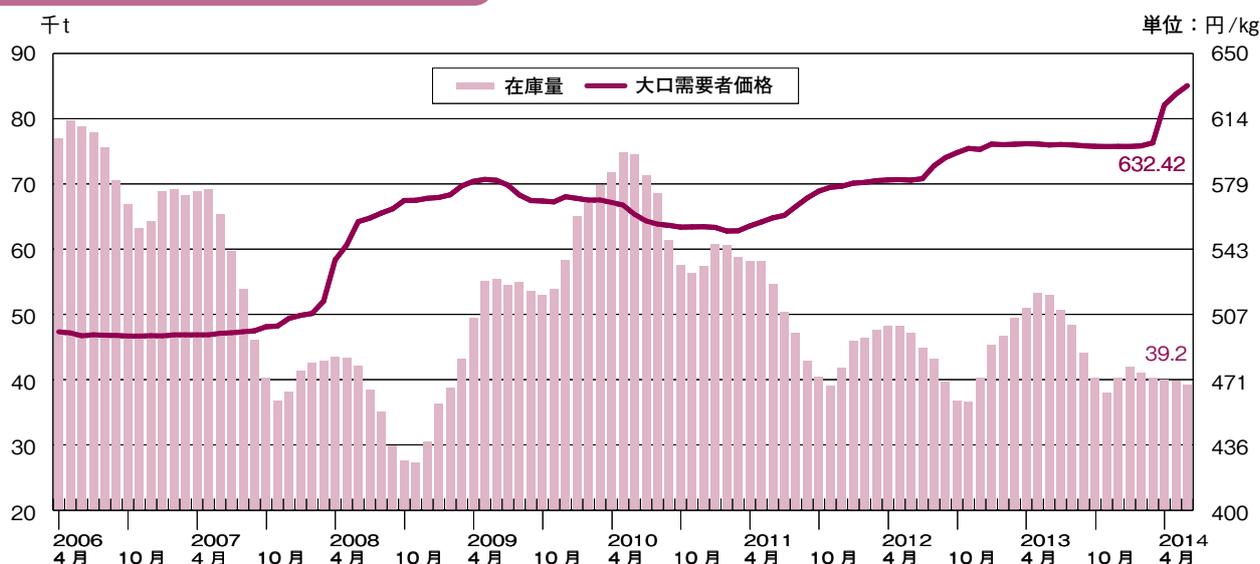


## 脱脂粉乳・バター国内在庫及び大口需要者価格の月別推移

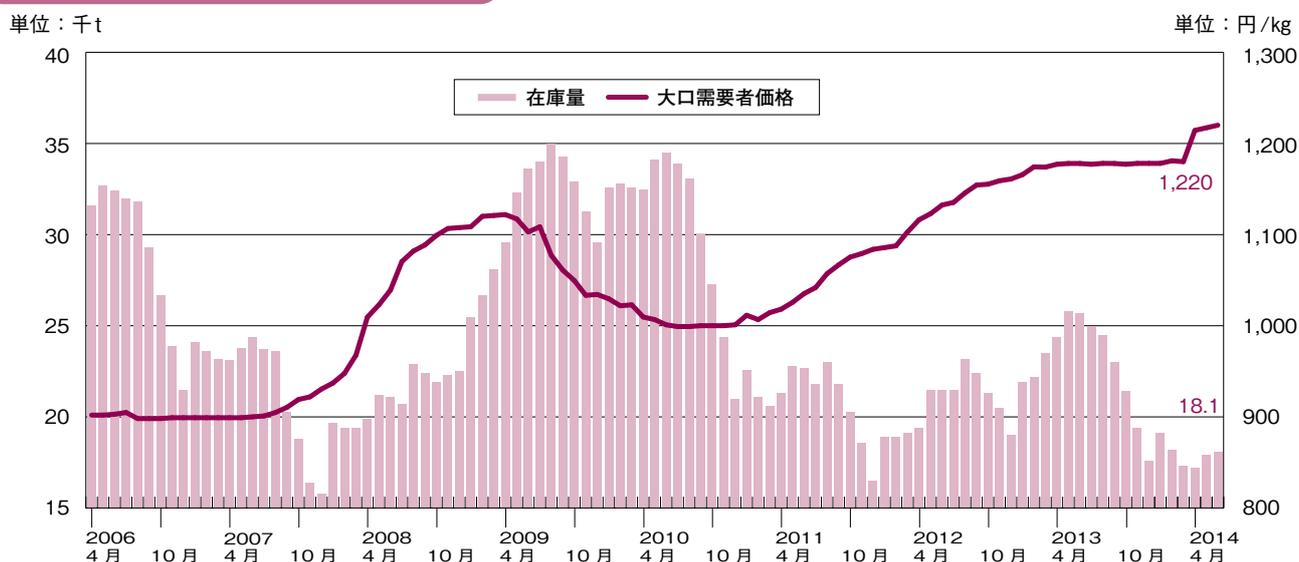
区分	バター		脱脂粉乳		区分	バター		脱脂粉乳	
	期末在庫量	大口需要者価格	期末在庫量	大口需要者価格		期末在庫量	大口需要者価格	期末在庫量	大口需要者価格
年月	千t	価格 円/kg	千t	価格 円/kg	年月	千t	価格 円/kg	千t	価格 円/kg
2013. 4月	19.4	1,116.2	48.2	580.80	2014. 4月	17.2	1,214	39.9	621.83
5月	21.5	1,122.9	48.2	580.99	5月	17.9	1,217	39.8	627.73
6月	21.5	1,132.4	47.1	580.69	6月	18.1	1,220	39.2	632.42
7月	21.5	1,135.2	44.9	581.49	7月				
8月	23.2	1,145.7	43.2	588.53	8月				
9月	22.4	1,154.3	39.7	593.03	9月				
10月	21.3	1,155.2	36.7	595.73	10月				
11月	20.5	1,159.0	36.6	598.06	11月				
12月	19.0	1,161.0	40.3	597.52	12月				
2014. 1月	21.9	1,165.7	45.3	600.42	2015. 1月				
2月	22.2	1,174.3	46.7	600.11	2月				
3月	23.5	1,174.3	49.5	600.34	3月				
年度計	257.9	13,796.2	526.2	7,097.71	年度計	53.2	3651	118.9	1881.98

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、大口需要者価格

### 脱脂粉乳 国内在庫・大口需要者価格推移



### バター 国内在庫・大口需要者価格推移



人事異動

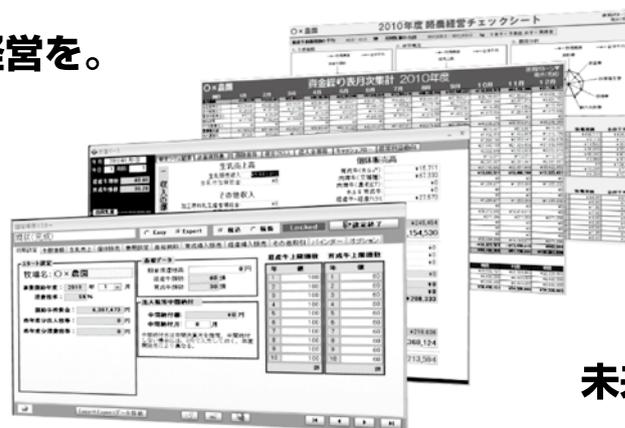
新		旧		氏名
<b>■平成26年8月1日付異動発令</b>				
札幌支所	帯広事務所長代理	札幌支所	購買推進課 副審査役	須藤 大吾
東京支所	総務課長 兼 指導組織課長	鹿島飼料工場	総務課長代理	中嶋 仁
大阪支所	中四国事務所長代理	大阪支所	購買畜産課 副審査役	置本 宗康
指導企画部付外向	日本酪農政治連盟 本所課長待遇	東京支所	総務課長 兼 指導組織課長	坂本 保
<b>■平成26年8月1日付昇格発令</b>				
大阪支所	購買畜産課長代理	大阪支所	購買畜産課 副審査役	岩崎 正孝
福岡支所	指導組織課長代理	福岡支所	指導組織課 副審査役	吉村 薫

酪農家経営管理支援システム(DMS システム)

Dairy-farm Management Support System

自分の牧場の10年後をイメージできますか？ まずは、現状の把握から始めてみましょう。  
DMSシステムでは、青色申告書を元に経営分析を行っています(無料)。  
お気軽に声をかけてください。

一歩先ゆく経営を。



未来を予測し対策を。

※全酪連酪農経営シミュレータ 操作画面

DMSシステムでは ①経営診断、②中期経営シミュレーション、③月次決算の支援を行っています。

全国酪農業協同組合連合会 酪農生産指導室 TEL 03(5931)8007

# 北海道 乳牛産地情報

平成26年8月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765  
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232  
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051  
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇩……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	27~32	↓	7月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計96.5%、累計95.2%、苫小牧管内月計101.3%、累計98.6%の実績。8月の初妊牛動向は、10月腹が中心で取引される。価格帯としてはF1腹が高く、次いで選別腹、ホル腹の順となっている。荷動きが弱くなる時期でありますので、価格は弱含みで推移するものと思われる。
	初妊牛	46~53	↓	
	経産牛	43~48	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	25~35	▼	7月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計97.5%、累計95.6%、中標津管内月計97.8%、累計95.8%の実績。8月の初妊牛動向は、10月腹中心、7月の購買は暑さの影響が残る9月腹のため、価格的にはやや弱含みで推移した。10月腹もその傾向は続く見込みで、かつ良い牛と悪い牛との価格差が顕著になると予想される。F1腹とホル腹とで開きが大きく、ホル選別腹がその中間帯の価格となる。道内外のメガファームの導入により相場が大きく変動するものと思われる。
	初妊牛	47~55	▼	
	経産牛	45~48	▼	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	27~32	▼	7月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計100.5%、累計99.1%の実績。8月の初妊牛動向は10月腹中心となり、夏場の導入となることから都府県需要は低下し価格は弱含みで推移するものと思われるが、牛の良し悪しにより価格差が大きく開いており、上物の牛は50万円台中盤になる見込み。育成牛についても、秋生まれの牛が中心となり、頭数も増えてくるためやや弱含みで推移するものと思われる。資源が比較的多い時期だが、道内の大型酪農家の初妊牛導入は続いている。
	初妊牛	48~55	↓	
	経産牛	45~50	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	25~33	▼	7月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計97.9%、累計97.1%、北見管内月計99.9%、累計98.7%の実績。8月の初妊牛の動向については、10月分娩中心となり都府県の引合いが弱く、価格も弱含みで推移するものと思われる。資源状況については、10月分娩以降は、公共牧場に放牧され豊富にいる模様。
	初妊牛	46~53	↓	
	経産牛	35~42	↓	
道内総括	育成牛(10-12月令)	25~33	▼	7月中旬までの生乳生産量前年比は、月計98.8%、累計97.2%の実績。8月の初妊牛動向は10月分娩中心。残暑が残るこの時期としては、未だ導入意欲は少なく、道内外の大型酪農家中心の導入が主となる。現状の引合い頭数では、上物とスソ物の区別がはっきりするため、価格的には前月に続き低調に推移する見込み。今年は内地の天候次第だが、9月下旬頃から活発に動く予想で、導入助成等の内容によっては、相場も上がる可能性がある。
	初妊牛	47~53	↓	
	経産牛	43~48	↓	

※上記相場は、血統登録牛(中クラス)の庭先選畜購買による予想相場です。庭先選畜購買のため、市場購買とは異なり、価格差が生じます。

## 今月の表紙

ばくお手伝いできるよ

今月の表紙は、「第5回酪農いきいきフォトコンテスト」(第43回全国発表大会にて開催)で特選に輝いた作品「ばくお手伝いできるよ」(宮城県 玉根 可奈氏 撮影)です。立派に作業を手伝っておられる姿が印象的で、将来が楽しみな1枚です。



▼7月17日、18日に仙台市にて第43回全国酪農青年女性酪農発表大会が開催され、全国各地から約600名の方にご参加いただき、盛会のうちを終了することができました。発表いただいた皆様を始め、ご協力いただいた皆様に深く御礼申し上げます。



### お詫びと訂正

本誌6月号(No.585)13~15頁に掲載しました「日本酪農見て歩紀」の記事、7月号(No.586)9~11頁に掲載しました「らくのうこどもギャラリー入選作品紹介」の記事の中で誤りがありました。謹んでお詫び申し上げますとともに、訂正いたします。

<誤> 地域について 22行目「出荷乳量は39.0万t」 → <正> 「出荷乳量は3.9万t」  
 <誤> 総応募点数「476点」 → <正> 「451点」  
 <誤> 秀作 加藤大地さんの作品名「ねむそうな牛」 → <正> 「ねむたそうな牛」

平成26年8月10日発行(毎月1回10日発行)

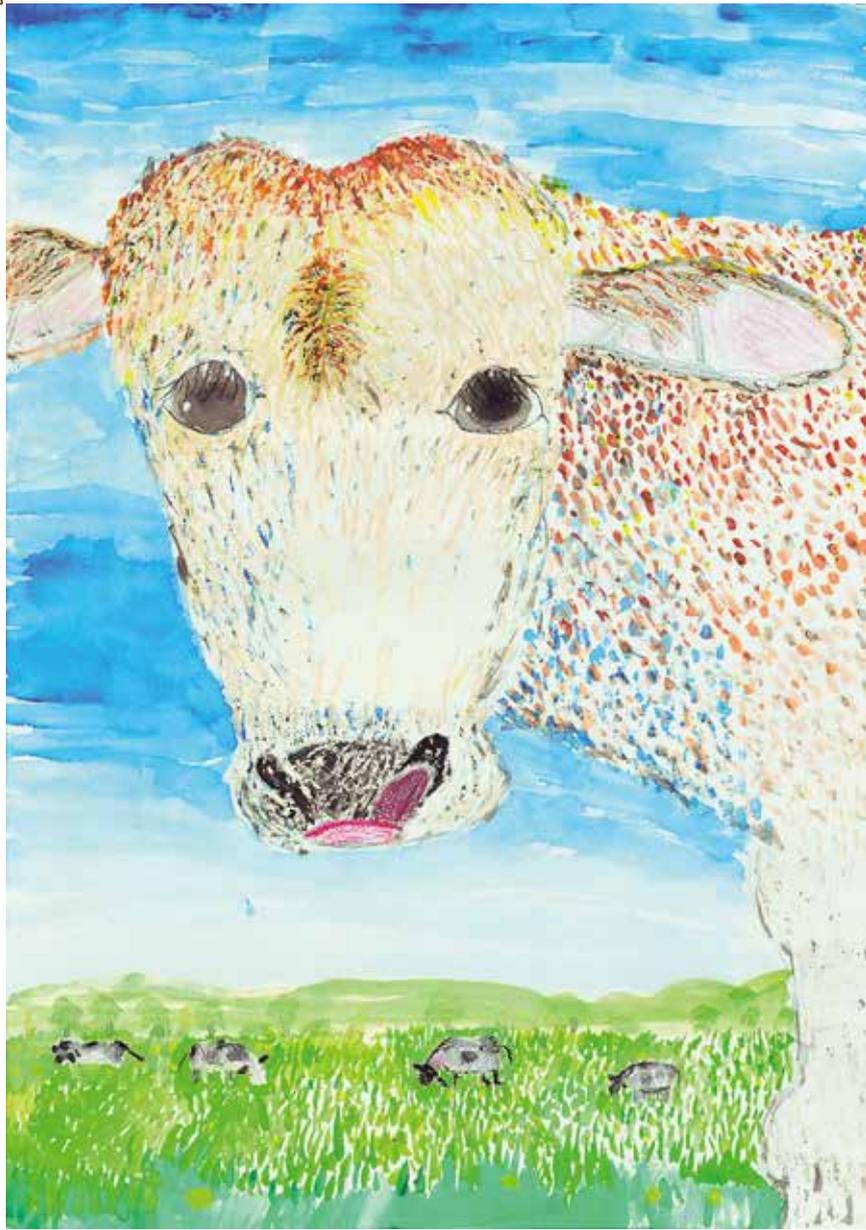
**ZENRAKUREN**  
 MEMBER'S INFORMATION  
 全酪連会報 8月号 No.587

●編集・発行人 中島 裕志郎  
 ●発行 全国酪農業協同組合連合会  
 〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号  
 TEL 03-5931-8003  
<http://www.zenrakuren.or.jp/>

今月の

ら  
く  
ろ  
じ  
ど  
も  
ギ  
ャ  
ラ  
リ  
ー

入賞作品紹介



### 子牛といっしょ

馬場川小学校(北海道)3年 森垣 華

**今**月の入賞作品は、馬場川小学校(北海道)3年の森垣華さんの作品です。

青空の下、舌を出しながらこちらを向いた牛さんを点描タッチで描いた作品。毛並みには様々な色を使い絵画作品としての深みを感じます。瞳にはグラデーション技法やハイライト技法を駆使しています。その効果で表情が生き生きとして魅力溢れる作品になりました。

※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第41回らくのうこどもギャラリー」で全国451点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議

